

地球環境を考え地域をデザインする

東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学農学部 7 号館 A 棟

(最寄り駅：地下鉄南北線 東大前駅)

E-mail : info@mail.en.a.u-tokyo.ac.jp

生物・環境工学専攻（学部では生物・環境工学専修）では、環境と人類の調和を念頭に7つの研究室で構成する3つの基幹講座（生物環境情報工学，地域環境工学，生物システム工学）が中心になって研究教育を進めています。前の2つの講座では、土や水、生態系を対象にミクロな粘土粒子からマクロな景観，地域サイズまで様々なスケールを対象にモニタリングや実験，モデリングを通じて，実態把握やメカニズムの解明，課題解決の研究を進めています。最近では，放射性物質で汚染された地域の復興も重要なテーマにしています。3つ目の講座では，バイオマスエネルギーや植物工場，農業用ロボットや非破壊センシング等技術の開発と応用をテーマにしています。

これらの基幹講座の他に農研機構の農環研が関わるエコロジカルセーフティ学連携講座，研究科内他施設が関わる生態調和工学協力講座，放射線環境工学協力講座の教員も一緒に研究・教育を進めています。

生物と環境をはかり解析する。

生物と環境をはかり解析する。
土壌水、環境水、細胞水をはかる
光合成、環境応答をはかる
放射能をはかる
農産物の品質・鮮度をはかる
分散型モニタリングシステム
地球環境観測
リモートセンシング
3D計測、バイオセンシング
温室効果ガスをはかる
GHG

地球温暖化、酸性雨、土壌浸食、
塩類集積、砂漠化、富栄養化、
バイオマスエネルギー、小水力発電、
洪水調節、災害復興・水循環、
社会資本の維持・管理、
景観シミュレーション、
生態系モデリング、ミチゲーション

地球環境を考え、
地域をデザインする。

食と環境を科学し応用する。

物質循環、
持続型農業、
食の安全・安心、
土壌汚染、放射能汚染
ポストハーベストテクノロジー、
フードチェーン、
農業ロボット、ICT、
精密農業、植物工場、
LED人工太陽光源

- ・環境と人類の調和
 - ・食料生産と環境との関係の体系化
 - ・グリーンイノベーション
- (専攻ホームページから転載)

資格取得コースは特になし

就職先：学部卒業後は，大学院進学に次いで民間企業，農林水産省への就職が多い。大学院修士課程修了後は，民間，官公庁（農林水産省，経済産業省）への就職の他，博士課程の進学者もいる。具体的な企業名については，専攻のホームページを参照ください。

生物・環境工学専攻ホームページ：

<http://www.en.a.u-tokyo.ac.jp/>